

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会
プライマリ・ケア認定薬剤師研修会
「がん患者に対する対応と地域連携
～こんな処方箋もってきたけどどうする?～」

(2023年 12月 17日 日曜日【午前】)オンライン開催案内

【一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会は日本医学会の第109分科会です。そして、プライマリ・ケア認定薬剤師制度は公益社団法人薬剤師認定制度認証機構（CPC）から「特定領域」の認定制度としての認証（認証番号P02）を取得いたしております。】

本研修は地域での連携のあり方というテーマに、トレーシングレポートや薬歴管理、連携の仕方などを学びながら、「病院と保険薬局」、「保険薬局同士」における連携の障壁などを解決するべくディスカッションを行います。3つのセッションに分け、保険薬局で抗がん薬を含む処方箋を応需したケースを想定し、①がん患者対応に必要な準備やスキルは何か②特定薬剤管理指導加算2を例に、服薬期間中のフォローアップにより収集する情報と薬学的評価をどのように病院と連携するか、③がん患者が来局したときにどういった事で困っているか、地域での問題解決をどのようにするか、グループワークを通して考えます。がん患者の対応に困っている方はもちろんですが、特定薬剤管理指導加算の算定で悩んでいる保険薬局薬剤師、連携充実加算算定を今後考えている病院薬剤師、地域連携を活性化したい方が参考となる内容です。是非ご参加ください。患者対応や地域連携の参考となる事例集をお渡しする予定です。今回は新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮し、ZOOMを使ったオンライン研修会とさせていただきます。研修に参加するには、一人一台のインターネットに接続可能なPC（カメラとマイク付き）、またはタブレットが必要となります。スマートフォンでの参加はご遠慮願います。

（細則による必須領域：A, C, D, G, J）

要 項		
1	主 催	一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会 薬剤師部会研修担当
2	研修期間	2023年 12月 17日（日）【午前】9:20～12:30
3	研修会場	Zoomを利用したオンラインでの研修会になります。お申し込みで入力したメールアドレスに配信URLを送付いたしますので、開始時間になりましたら、そのURLをクリックして研修会にご参加下さい。研修会終了後、グーグルフォームへのアンケートに当日中にご回答下さい。
4	認定単位	薬剤師:2単位(認定薬剤師単位)、医師:3単位(更新のための単位)
5	受講資格	薬剤師、医師、歯科医師、看護師、医療職、医療関係者
6	定員	80名(スモールディスカッション形式※ZOOMでのブレイクアウトルーム使用)
7	受講申込	締め切り:2023年12月1日(金)午後5時 ホームページからの申込による先着順となり、定員になり次第締め切ります。 電話、ファクシミリ、メールによる申込は受付けておりません。
8	受講振込	申込書を受信後、順次ご入金方法についてご案内させていただきます。 ※ 指定期日にお振込みの確認ができない方は、キャンセル扱いとなりますのでご留意願います。
9	受講料	5,500円 但し、日本プライマリ・ケア連合学会会員は4,000円 ※ 受講料入金後のキャンセル又は欠席の場合、原則として受講料の返金はできません。

申し込み先：日本プライマリ・ケア連合学会事務局担当係プライマリ・ケア認定薬剤師研修会事務局
〒550-0001 大阪府大阪市西区土佐堀1-4-8 日栄ビル703A 有限会社あゆみコーポレーション内

TEL:06-6449-7760 FAX:06-6441-2055 jpca@a-youme.jp

プログラム

2023年12月17日(日曜日)

9:00~	受付
9:20~12:30 (休憩 10分を含む) (9:20~10:30)	(研修内容) 「がん患者に対する対応と地域連携 ~こんな処方箋もってきたけどどうする?~」 「① がん患者対応に必要な準備やスキルは何か」 講師：下村直樹 (研修内容) 講義・ディスカッション形式 生涯2人に1人はがんになる現在、かかりつけ薬剤師としてがん患者への対応能力が求められます。一方、対応機会が少ない、得られる情報が少ない等の問題点も多く存在します。今回、処方の妥当性を確認するために収集すべき情報やその入手手段、服薬指導をする上で必要な知識、スキル等、がん患者来局時の対応について検討、解説します。がん患者が来局した際「何」を頼りに「何」をすればよいか整理し、実業務に役立てる内容とします。
(10:30~11:30)	「② 服薬期間中のフォローアップにより収集する情報と薬学的評価をどのように病院と連携するか」 講師：立澤明 (研修内容) 講義・ディスカッション形式 保険薬局が算定できる、がん領域の加算として創設された特定薬剤管理指導加算2を例に、かかりつけ薬剤師による服薬期間中のフォローアップにより収集する情報と薬学的評価をどのように連携していくか、事例を交えて検討します。病院薬剤師、保険薬局薬剤師双方の視点からより良い情報連携を目指して討議出来たらと考えています。また、ICTツールを用いた情報連携の事例も紹介します。①の内容に続いて一連の流れで解説します。
(11:30~12:30)	「③ 地域での問題解決をどのようにするか」 講師：高山俊輔 (研修内容) 講義・ディスカッション形式 「こんな処方箋もってきたけどどうする?」という処方内容のみならず、がん患者が来局したら困ってしまう地域の障壁についてディスカッションします。どうすれば、がん患者への対応を解決できるか、そしてその具体的策は何か議論するとともに、現在進められている取り組みや方策を解説します。 (細則による必須領域 A, C, D, G, J)

20分以上の遅刻・早退は原則単位になりませんのでご注意ください。

【講師紹介】

氏名：下村直樹 (薬剤師)

所属：日本調剤 柏の葉公園薬局 管理薬剤師

氏名：立澤明 (薬剤師)

所属：アポクリート株式会社 薬局事業本部 第三事業部 埼玉第六ブロック長

氏名：高山俊輔 (薬剤師)

所属：埼玉医科大学国際医療センター 薬剤部 主任